



TAKAOKA



IMIZU



HIMI

とやま呉西圏域都市圏ビジョンの進捗状況について

TONAMI



OYABE



NANTO



とやま呉西圏域 平成30年度の予算(案)

圏域の役割	平成30年度 予算(案)	平成29年度 予算
ア 圏域全体の 経済成長のけん引	54,491千円	52,973千円
イ 高次の都市機能の 集積・強化	159,431千円	150,954千円
ウ 生活関連機能 サービスの向上	145,132千円	93,829千円
合計額(ア+イ+ウ)	359,054千円	297,756千円

予算化事業数27事業(平成29年度:24事業)

うち射水市は23事業 56,616千円を予算化(平成29年度:19事業 33,466千円)
対前年度比 4事業 23,150千円増

とやま呉西圏域 平成29年度の主な取り組み

ア 圏域全体の経済成長のけん引

呉西観光誘客推進事業

圏域の多彩な観光資源(自然・文化・産業遺産等)の連携によるマーケティング・ブランディングにより、圏域の観光エリアのPR強化・充実に努め、観光誘客を図る。

JR大阪駅観光PRイベント(平成29年11月9日10日)

JR西日本エリアで最大・1日約43万人が利用するJR大阪駅のアトリウム広場でPRイベントを実施。



この他にも

- ・麻布十番納涼まつりでのPR
- ・「びゅう富山WEST」を販売
- ・「魅力新発見ツアー」の造成 など

シンガポール「JAPAN RAIL CAFE」にてPRイベント実施 (平成30年1月19日~21日)

平成28年11月、シンガポールの中心ビジネス地区にJR東日本グループがインバウンド戦略の拠点として「JAPAN RAIL CAFE」をオープン。ASEAN内でも訪日リピーターの多いシンガポールを対象として、とやま呉西圏域での出向観光PRを実施しインバウンドに繋がるイベントを実施。



異業種交流促進事業

圏域内の企業交流や域外企業との新たなビジネスマッチングの実現に向けた機会創出を推進する。

メッセナゴヤ2017(平成29年11月8日~11日)

約1,400社が出展、4日間でのべ62,800人が来場した日本最大級の異業種交流会に「とやま呉西圏域」の特設ブースを設置しての参加。

とやま呉西圏域の23社
が共同出展に参加



異業種交流促進セミナー(平成30年2月21日)

新たなビジネスマッチングの機会創出のため、異業種交流を成功させるためのポイント等について専門家が分かりやすく解説。また、参加企業やクリエイターによるPRコーナーやPRタイムを設けてビジネスマッチングを後押しするセミナーを開催。

場所:ウイングウイング高岡503研修室
講師:(株)コボ代表取締役社長 山村 真一氏
講演:デザインでつなぐ異業種連携



とやま呉西圏域 平成29年度の主な取り組み

イ 高次の都市機能の集積・強化

広域的公共交通ネットワーク強化事業

城端・氷見線沿線公共交通網形成計画に基づく各種施策の展開や万葉線のICカード導入検討など、鉄軌道の連携強化を骨格とした各種公共交通ネットワークの活性化を図る。

城端線・氷見線スタンプラリー(平成29年7月20日～10月30日)

城端線全線開通120周年を記念した城端線・氷見線沿線ガイドを作成し、あわせてスタンプラリー等の企画を実施。

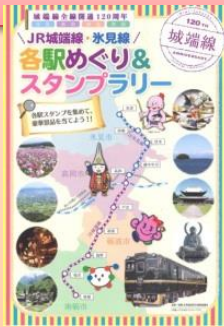


寿司職人

観光ガイド



ベル・モニター・ニュー・メール



城端線・氷見線沿線地域公共交通網形成計画に

位置付けられた事業

高岡市、氷見市、砺波市、南砺市の4市で、平成29年3月に「城端線・氷見線沿線地域公共交通網形成計画」を策定し、城端線・氷見線の利便性向上、活性化に向けた調査、研究を実施。

- ① 城端線・氷見線全駅での乗降者数のカウント調査
- ② 平成28年度で終了した「城端・氷見線地域公共交通総合連携計画」(計画期間:H24～H28)の成果検証の調査
- ③ 城端・氷見線の直通化に向けた検討調査

高機能素材研究活動事業

圏域に先端材料の研究・開発拠点があり、その活用を圏域が一体となって支援することにより、機械金属、IT、繊維、化学工業など圏域内の各分野において波及効果をもたらし、経済成長や新産業の創出につながることを期待できることから圏域の産学官が連携し、圏域の強みを伸ばす高機能素材の研究開発の促進に向けた一体的な取り組みを展開する。

富山大学へ委託(平成29年8月～)

富山大学へ「**アルミを中心とする軽金属分野における現状分析と今後取り組む課題についての考察**」についての研究を委託。

アルミ産業企業へアンケート調査(平成29年8月～)

材料開発、鋳造、加工、接合、表面加工(腐食)、リサイクルなど様々な分野における研究内容、共同研究、必要とする支援策などを調査。

アルミ産業企業への訪問、ヒアリング調査(平成29年9月～)

アンケート調査への回答企業のうち数社へ更にヒアリングをし、方向性や現状を確認。

今後の方向性(平成30年4月～)

富山大学からの報告書をもとに、富山県、アルミ産業協会などにも意見をもらいながら、報告書で取りまとめた内容のプロジェクト化をコーディネートしていく予定。

※県が平成30年度からの設置も検討している「アルミコンソーシアム」の動きとリンクさせながら事業展開を図りたい。

とやま呉西圏域 平成29年度の主な取り組み

ウ 生活関連機能サービスの向上

こども福祉支援相互連携事業

こども医療費助成方法の統一化により、手続きの煩雑さが解消され、利便性の向上が図られる。また、行政及び医療機関は事務負担の軽減が期待できることから、圏域住民が6市の「こども医療費助成制度」を利用して圏域内の医療機関を受診する場合における助成方法を、現物支給に統一する。



こども医療費の現物給付助成の対象保険医療機関の拡大

平成29年4月1日より、福祉医療費請求書(ピンクの用紙)を使用できる医療機関及び薬局の区域が拡大。1歳～中学3年生は、圏域内の保険医療機関等を受診したときには、ピンクの用紙が使えます(0歳は県内全域)。6市の保険医療機関であれば、受給資格証と福祉医療費請求書(ピンクの用紙)により医療機関窓口で負担なしで受診可能。(ただし6市以外では、窓口で支払後に各市役所へ申請し返還を受ける『償還払い』による助成となる。)

対象区域の拡大

	～H29年3月31日	H29年4月1日～
高岡市	高岡市・射水市・砺波市・小矢部市・氷見市内の保険医療機関	県西部6市の 保険医療機関
射水市	射水市・高岡市内の保険医療機関	
氷見市	氷見市・高岡市内の保険医療機関	
砺波市	砺波市内の保険医療機関	
小矢部市	小矢部市内の保険医療機関	
南砺市	南砺市内の保険医療機関	

大幅に対象医療機関が拡大
※利用者の利便性向上

職員人事交流・統一的な職員研修

圏域6市の職員による人事交流、職員個々の素養やスキルアップにつながる研修を統一的に実施する。

職員研修(平成29年11月28日～30日)

富山県巡回アカデミー「地元の資源を生かした魅力ある地域づくり」と題して、とやま呉西圏域の職員を中心に県内市町村職員を集めた合同職員研修を開催。県市町村職員研修機構、市町村アカデミーの主催で、講義&グループワークによる高度で専門的なカリキュラムを短期研修で学ぶことができる機会を提供。

～出席者～

高岡(9人)、射水(9人)、氷見(6人)、砺波(8人)、
小矢部(5人)、南砺(5人)、圏域外(5人)
合計47人



グループワーク

職員交流

(平成29年4月1日～平成30年3月31日【派遣期間:1年間】)

【氷見市⇒高岡市(観光交流課)】 職種:事務職
【高岡市⇒氷見市(企画政策課)】 職種:事務職
【小矢部市⇒砺波市(砺波市健康センター)】 職種:保健師
【砺波市⇒小矢部市(健康福祉課)】 職種:保健師
【南砺市⇒射水市(射水市保健センター)】 職種:保健師
【射水市⇒南砺市(健康課)】 職種:保健師

平成30年度は、

高岡市 ⇄ 砺波市 氷見市 ⇄ 南砺市 小矢部市 ⇄ 射水市

とやま呉西圏域 平成30年度の主な取り組み

ア 圏域全体の経済成長のけん引

呉西圏域ブランド育成事業

圏域の農林水産業の振興に向け、生産者と企業等が連携を図り、呉西圏域ブランドの育成につなげるとともに、圏域内の消費の定着化を図る。

とやま呉西圏域マッチング会

新商品・新サービス開発・販路開拓などに向けて、農林漁業者と加工業者、商工業者等とのマッチングのためのセミナー、相談会を開催。

※平成30年度も引き続き実施予定



共通献立「呉西(ごーせい)な日!!」

6市の農水産物を使った共通の献立を学校給食で提供し、共通の献立名は、分かりやすく親しみが持てるように「呉西(ごせい)」と「豪勢(ごうせい)」をかけて名付けた。富山県食育推進月間(11月)にあわせ、6市の小学校・中学校・特別支援学校において提供される。



共通献立	メニュー	6市の食材
	牛乳	
	ハトムギごはん	ハトムギ
	里芋ハンバーグ	里芋、にんにく
	枝豆サラダ	枝豆
	大門そうめん	大門そうめん、蒸しかまぼこ、干し椎茸
	りんごゼリー	りんご果汁

起業・創業支援事業

起業・創業支援に関する情報共有・発信体制を構築することにより、圏域内における起業・創業者の拡大に向け、新たな掘り起しや一体的なサポートに取り組む。

① 創業者の掘り起こしの強化

創業を検討している方を惹きつけ、創業への一歩を踏み出してもらうための導入的セミナーを開催する。このセミナーと各市での創業講座を連動させることにより、各市での創業講座受講者数の増を図る。

② 創業者同志のネットワーク構築

各市の創業講座を受けた者を対象に交流会を実施し、創業者同志のネットワークの構築を支援。創業者同志が事業の成功・失敗等の情報を交わすことにより、事業継続に役立ててもらうとともに、創業者同志のネットワークが取引機会の増大等の新たなビジネスチャンスの創出に繋がっていくことを期待するものである。

① 創業者の掘り起こし強化(導入セミナー)

各市・各市商工会議所などの創業講座

高岡市 射水市 水見市 砺波市 小矢部市 南砺市

② 創業者同志のネットワーク構築

起業・創業

とやま呉西圏域 平成30年度の主な取り組み

イ 高次の都市機能の集積・強化

大学が取り組む広域的な課題解決に向けた連携の推進

6市間における広域的または共通課題の解決に向けた調査研究及び各大学が取り組む学生が主体となった地域課題解決に向けた研究や富山県内7高等教育機関が連携し実施しているCOC+の目標実現に向けた取り組みのうち、複数の自治体にまたがる事案について、共同して対応する。

とやま呉西圏域調査研究事業補助金を創設(平成29年5月26日)

人口減少・少子高齢社会においても、活力ある社会経済を維持するため、大学、短期大学及び高等専門学校がとやま呉西圏域をフィールドとして実施する地域課題解決に資する調査研究を支援するため補助金を創設。※平成30年度も引き続き実施

補助対象経費・補助金額:

年度ごとに1調査研究あたり50万円を限度(補助率100%)として補助します。研究期間は、2か年を限度とします。補助対象経費は、消耗品等(1件1万円未満のもの)、謝金(外部講師の招へい等に係る経費)、旅費、会議費等

平成29年度 交付決定した研究事業

調査研究名	研究代表者	交付決定額
呉西圏域の農的生業が作り出す景観をツーリズムへ活用する	富山大学芸術文化学部 准教授 奥 敬一	42万円
水のふるさと庄川扇状地の水環境～持続可能な水利用に向けて～	富山大学大学院理工学 研究部教授 張 勁	25万円
呉西地区の国指定伝統的工芸品産地に関する調査研究事業	富山大学芸術文化学部 講師 安嶋 是晴	50万円

高度な医療サービス連携事業

がんや循環器疾患、脳卒中、さらには糖尿病など生活習慣病に代表される慢性疾患など、様々な疾病に対する高度な医療サービスの提供に向け、公的機関や民間病院などが連携し、それぞれの機能に合わせた役割分担を図りながら、サービスの維持・向上や人材の育成・確保につなげる。

高岡市民病院

がん医療に関する情報の共有化を図り、多職種が連携してがん患者をサポートするため、市民病院独自の取り組みとして開設。専門資格を有する看護師を配置し、予防医療・集学的治療・相談支援・在宅医療支援の観点から、包括的にがん医療を支える診療体制を構築する取り組みを進めている。

平成28年度の実績

～がん相談件数～ 209件
～診療実績～ 1,222人



市立砺波総合病院

がん情報センターによる院内がん登録実務研修会受講済の診療情報管理士を医療情報部門に配置し、砺波医療圏内のがん診療状況の把握をするとともに、がん情報センターに専門資格を有する看護師を配置し、相談機能の充実を図っている。

平成28年度の実績

～がん相談件数～ 627件
～診療実績～ 917人



とやま呉西圏域 平成30年度の主な取り組み

ウ 生活関連機能サービスの向上

企業誘致の一体的推進

圏域における企業誘致を促進するため、立地環境のPR活動や企業ニーズ把握のための調査、域内外の企業間のマッチング等に一体的に取り組む。

とやま呉西圏域ビジネス交流交歓会

平成28年度までは小矢部市・氷見市・高岡市の3市で実施していた「ビジネス交流交歓会」を、平成29年度は6市に枠を広げて実施。

※平成30年度も引き続き実施



事業連動させる

企業誘致アンケート調査

平成29年度は「とやま呉西圏域ビジネス交流交歓会」の後に実施した。29年度のアンケート調査を踏まえて圏域への進出に興味がありそうな企業を30年度開催のビジネス交流交歓会へ招待。また、名古屋に拠点がある企業については、拠点となる名古屋事務所から企業訪問。

事業連動させる

企業誘致事務所

富山県名古屋事務所へ砺波地区広域圏事務組合（砺波市・南砺市）から職員を1名派遣。

広域防災連携事業

圏域内で連携し、地域の防災リーダーとなる防災士などを育成し、地域防災力の要となる自主防災組織の活動の支援・活性化と防災力の強化を図る。

県西部6市防災士育成研修会

大規模災害、集中豪雨などに備えるため、県西部6市の防災士が集まり、各市における防災士による出前講座、避難所運営に関する研修会や防災パトロールなど、日ごろの活動内容を報告。



各市総合防災訓練に防災士が参加

各市の総合防災訓練に防災士が参加。

防災講演会

防災士を中心に圏域市民に防災知識や気象情報など、講和を通じて防災意識・防災力の向上を図る。

災害用備蓄

各市において策定している災害備蓄計画に基づき、各市の必要数を備蓄する。当初は圏域全体での災害備蓄計画の策定を試みたが、設置場所に偏りができては不平等感が生まれ、またスペース不足にも問題があった。そこで、**各市防災担当課が24時間いつでも連絡がとれる体制を整備**し、有事の際には応援物資を持ってかけつけることのできる「連絡体制」を整備。